

金沢での被災地支援活動報告

寺嶋一裕



↑ 寺嶋医師

2024/1/1に起きた令和6年能登半島地震では、愛知でも大きな揺れを感じ、被災地での甚大なる被害が想起されました。愛知でも東海大震災がいつ起きるかと言われており、震災は他人事ではない中で、自分に出来る事は募金くらいしか無いなと思っていた矢先に、井澤先生から被災地支援活動のお話を頂き、1/16～20の5日間金沢に派遣となりました。

金沢駅は外観ではほぼ被災の影響はなく、お店も営業していましたが人は少なく、逆にタクシーやホテルは保険会社や被災地支援の人で一杯との事でした。金沢医科大学は内灘にあり、金沢駅よりは被災地に近づくのですが、経路は確保されており問題なくタクシーでたどり着く事が出来ました。ただ一つ横では道路が割れており通行止めになっていたらしいです。

何をやるかも全く分からないまま金沢に派遣となりましたが、実務内容は金沢医科大学病院での後方支援で、被災地の医療機関で転院が必要となった患者様で、一般内科で対応可能な患者様を私達が担当するという内容でした。



救急総合内科の松井先生と2人で病棟を担当し、病棟は元々は使われていなかった場所を急遽稼働させ、看護師の半分は大学の各部署から呼び集められ、もう半分は外からの派遣という体制で医療を行いました。1日に入院が2-4人入り、当直は2日に1回という状況で、かつタクシーで帰るにも大学付近ではタクシーが本当に捕まらなくて結局病院に泊まるという日々でしたが、宿泊部屋は病棟の個室を提供頂き、病院のレストランで海鮮丼を食べて金沢を感じてきました。



医療を行うに当たり、慣れない環境かつ知らないメンバーとの仕事というのは難しい点もありましたが、本質的にはいつもと変わらない事でもあり、ある程度貢献は出来たように思います。派遣にあたり、入院患者様の担当や業務を交代頂きました先生方には重ねて御礼を申し上げます。

